

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	すたぁりっと ジュニア 東住吉		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 29日		R8年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	28
○従業者評価実施期間	R8年 2月 2日		R8年 2月 11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SSTを用いた訓練を1日30分間を2回行っている。 6つの基本スキルを身につけることによって社会生活を円滑に送ることができ、困難を減らすことにつながる。 SSTで訓練できたことを、イベントで実践している。	毎月スケジュールを立てて、様々な訓練を計画して、参加してもらえるよう考えている。 会話、相手の感情理解、頼み方、断り方、怒りの管理、報告・連絡・相談がうまくできるようになるような訓練を取り入れている。	職員のレベルの差を作らないように、勉強会を行ってレベルアップを図っている。
2	昨年から訓練の中にPBSの考えを取り入れて行っている。	PBSの基本原則： 個人のニーズ、好み、目標を理解することに重点を置いている。 研究と実証された方法論に基づいている。 問題行動に反応するのではなく、問題行動を予防することに重点を置いている。 エンパワメント：自立と自己決定を促進するスキルの構築を目指す。	PBSの研修を通じて、個別にアセスメントをとることができている。
3	PBSを導入して、専門的で効果的な支援を行っている。	事例検討を定期的実施し、個別の課題に応じた支援を職員間で共有している。	共通の課題を持つ複数の対象者に向けた支援を対応する職員が変わっても実践できるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・洗面台やトイレが訓練室外にあるため、通所の準備や排泄の際に死角になりやすい。	・ドアの前でぶつかりそうになったりしているため、ロールプレイで右側通行や、ドアは職員が開け閉めすることを伝えている。	・死角になるため、排泄や手洗いの際は必ず職員が側に付き見守りを行っている。
2	・高学年になると授業が終わる時間が低学年より遅いため、事業所到着がロールプレイ前になることがあり、通所の際の準備の手洗いうがい抜ける日がある。	・ロールプレイを通し、定期的に通所してからの準備について再確認を行っている。	・通所してからの準備が全て終わってからロールプレイに参加をしているのかを職員が声を掛けて支援を行っている。
3			

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 すたぁりっとジュニア 東住吉

公表日 令和8年2月28日

利用児童数 35

回収数 28

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	5				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	24	2		2		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	2		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27	1			においが気になることがある 建物から下水の匂いがでることがある。消臭ビーズを各部屋、下駄箱に置いている。トイレ、洗面所の換気扇は常時スイッチをオンにしている。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26			2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26			2		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27			1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27	1				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10	4	4	10		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	28					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16		7	5	まだ参加できていないため。以前ペアレントトレーニングを行うと聞いていましたが、実施されていない。どうなったのかと気になりました。	系列の事業所でペアレントトレーニングを行っているので、当事業所でも実施できるか検討を行う。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25	2		1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	1		2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25	2		1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	1	8	7	まだ参加できていないため。	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25	1		2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	3		2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	2	1	7	前はよくSNSに写真などありましたが、最近はなく、イベントの時の写真もなく残念です。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24	2		2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24			4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25			3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	1		2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	2				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	26	2			学年が上のお兄ちゃんから嫌なことを言われたり、暴力などがあり会いたくないと言ったりしている。大人がいるのになぜ見ていないのかと思う。	・職員が間に入り、事実確認をしている。また、職員で振り返りを行い、オペレーションや死角がないように支援を行う様全職員で話し合いをしている。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24	3	1		イベントの時は楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	2				

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		すたありっとジュニア 東住吉		公表日 令和8年2月28日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	4		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	4	マットが色分けしてあり、子供に説明（場所など）しやすくなっている。	・バリアフリーまでは、建物の構造上難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3	掃除には気を配り、行っている。 アルコール消毒を定期的に行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	職員会議を月に1回行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	PBSの勉強会がその機会になっている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	必須研修を毎月行っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	作成し、前月の初旬には配布している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	2か月前に職員で案を出し合い作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	基本は集団支援なので、その中で行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	振り返り（フィードバック）を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	毎日サービス提供記録を記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	6か月ごとに行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	プログラムによっては、自己決定が必要となる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	要請があれば参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	家庭から提供された下校時間に基づいて送迎とは行っている。	必要な時は学校へも連絡している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3	同法人の未就学児事業所を介して行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	7	同法人の中高生の事業所に対して、情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	0	7	受けた記憶がない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	7	参加できていない。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	日々気づいたことがあればすぐに連絡し、スタッフ間でも共有している。 必要であれば、家庭訪問も行う。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時、モニタリング時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	プログラムの間や、フリーの時間に子供の意見を聞いている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	必要な時には行っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	7	父母の会などの支援は行っていない。兄弟同士の交流はある。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	真摯に向き合っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	3	法人を通して行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	7	招待することはないが、参加することはある。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	マニュアルを策定し、訓練も行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	マニュアルを策定し、訓練も行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	契約時アセスメントで確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	医師の指示書が提出されていることはない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1	周知してもらえるように書面を配布している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	3ヵ月ごと、ヒヤリハット報告書に基づいて再発防止のため、事例検討会を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	年1回以上全職員に向けた研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	拘束をすることはありませんと、個別支援計画に明記している。		